

発表

ワークで話し合った内容を、代表して2つのテーブルから発表していただきました。

Bテーブル



私たちが話し合った南陽市の魅力は、地区ごとに違った特色があったり、まちの規模感が暮らしていくのにちょうど良く、外国人も他市町村に比べて多く住んでいて、町外の人を受け入れる風土があることです。また、全国的にも有名なラーメンを食べに多くの観光客が訪れること、ワインの生産が盛んであることなども挙げられました。一方で課題としては雪が多く除雪に苦労することや、南陽高校入学者が年々減少していること、町内外の人が楽しめるような目玉となるようなイベントがないことなどが挙げられました。

Dテーブル

南陽市は人々の繋がりが強く、地区ごとにお祭りが多くことや、熊野大社や温泉、偉人を多く輩出していることなど、歴史が深く、観光客が多いことが魅力です。一方でビジネスや観光の今のニーズに対応できていない面があったり、電車の本数が少ないなどのアクセスの課題や、地域の魅力に気づいていない人も多いと思います。しかし今日のワークショップには高校生も多く参加しているので、これからの南陽の魅力を発信していく人材になってくれるのではないかと期待しています！



講評



東北芸術工科大学
コミュニティデザイン学科
醍醐孝典

地区ごとに特徴が異なることや人の多様性などは計画においても大事な視点になってくると思います。雪や温泉についてなど、模造紙を見てもわかるように、魅力と課題は表裏一体です。次回は未来の南陽市での暮らしについて考えていきますが、その時に大事なのが、魅力をより活かすだけでなく、課題をよりポジティブな方に考え、解決するような視点をもつということです。

今日は想像以上にたくさんの付箋(意見)が出ていて驚きました。市職員もまとめるのに良い悲鳴を挙げていましたね。定住人口が増加する時代ですので、これからは交流人口も大切になります。このワークショップでは想いのある人や普段で出会わないような人と繋がったり、応援してもらえる人を増やしていけるような場になっていくといいのではないかと思います。

参加者の感想

年齢や性別、立場を超えて様々な人と話ができて楽しかった / 時代に合わせた計画策定が必要だとわかった / 自分たちで「南陽市を残す」という気持ちになった / 市民目線の計画をつくっていきたい / みんなが積極的に発言できた / 発言しやすい雰囲気をファシリテーターがつくってくれてよかった / 未来を語るの楽しい時間だった / 時間が短くワークの内容をあまり掘り下げられなかった / 他市町村のおもしろい事例も学びたい / 全体的にもっとテーブル内で話し合う時間が欲しい

次回のご案内

日時：2019年10月30日(水)
18:30~20:40

場所：シェルターなんよう 小ホール
南陽市の将来像を考えます。

お問い合わせ
南陽市みらい戦略課
tel. 0238-40-0248



nanyo 市民とみらい ワークショップ

Vol.1

2019年10月2日(水)
18:30~20:40
シェルターなんよう 小ホール

プログラム

開会
趣旨説明
テーブル内自己紹介
市民参加で計画をつくる意義
ワーク「市の魅力と課題」
閉会

白岩市長あいさつ



まちをつくる主役は市民のみなさんです。総合計画は市民が知らないうちに策定され、計画書を市民が誰一人読んでいない中で施策や事業が進んでいくということが往々にしてありますが、それでは意味がありません。南陽市では市民のみなさんにも策定にご参加いただき、できるだけ多くの意見を取り入れたいという思いからこのワークショップを開催しました。今日は若い方からベテランの方まで、こんなにも多くの方にご参加いただき正直驚いています。ぜひこの機会をきっかけに、市民と行政が協働してまちづくりを推進し、活気のある南陽市をつくってほしいと思っています。

「市民とみらいワークショップ」について

南陽市では、2021年度から2030年度までの10年間を計画期間とした新しい総合計画の策定に取り組んでいます。10月2日にスタートした「市民とみらいワークショップ」では、市民44名が参加。市職員がテーブルの進行役となって、南陽市の魅力や自慢できること、課題や心配なことをワークショップ形式で話し合いました。

進め方

このワークショップでは、南陽市の魅力や課題、将来像を全3回のプログラムで整理し、基本的な方向性(目標)をまとめていきます。

今後のスケジュール
第1回：10月2日(水) 本日！
第2回：10月30日(水)
第3回：11月27日(水)

市民ワークショップの流れ(想定)



ワークショップの趣旨説明



南陽市みらい戦略課
企画調整係長
鈴木淳

今回策定する計画は2021年度からの10年間のものです。現在の南陽市は少子高齢化や地域経済の低迷など、様々な課題を抱えています。そんな中で市民と行政が一体となり、市民目線での意見交換を行いながら、継続的に発展する持続可能な社会をつくりあげていくのが今回のワークショップのねらいです。南陽市の現状を少し詳しくみてみると、2015年の国勢調査では32,285人だった人口が、30年後には約1万人減少すると予測されています。少子高齢化だけではなく、高校卒業後の年代が進学や就職により市外に多く流出するという現状もあります。産業構造では、製造業の売上高が一番多く、地域経済へ与える影響が大きい一方で事業所が年々減少していたり、農業では果樹の生産量が県内で一番多い一方で、農業従事者の平均年齢は65歳と高く、このままでは衰退が予想されます。だからこそ今回のワークショップをきっかけに、幸福度の高いよりよい南陽市を市民のみなさんと共につくっていきたく考えています。

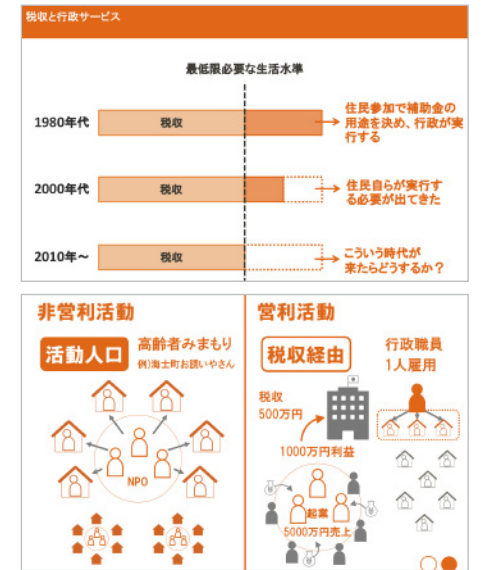


市民参加で計画をつくる意義



東北芸術工科大学
コミュニティデザイン学科
醍醐孝典

少子高齢化が進み人口が減少すると税収が減っていきます。これまでの時代のように、税収を市の公共的な事業に使うことでまちを維持するだけの考えは難しい世の中になってきました。「人口減少」と聞くと良くないイメージを持つ方が多いかもしれませんが、「自分たちのまちを自分たちが運営していく」という考え方に変わると決して悪いものではありません。定住人口は減っても、地域で活動する人が増えていけば、まちは維持できるのではないのでしょうか。ですから今回のワークショップは単なる意見交換の場ではなく、「こんなことやろうよ!」「こんなアイデアを応援してくれる人がいないかな?」などをきっかけに新しい仲間や活動が生まれたり、先進的な事例を学び合うような場になってほしいと思っています。時代はもはや人口が減少している地域ほど日本の最先端になってきています。ですから大都市や山形市と比べて南陽市を考えるのではなく、これから自分たちが幸せに暮らしていくにはどんなことが必要なのかを、この機会に共有していきましょう。



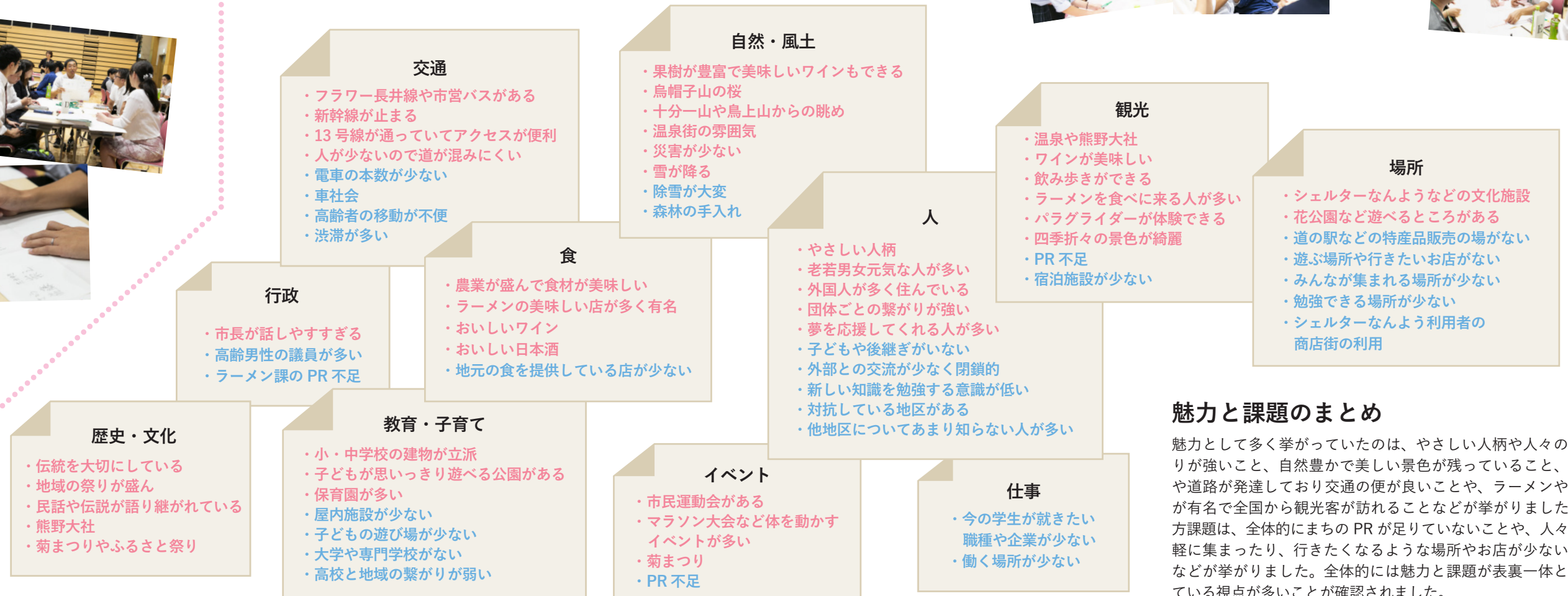
自己紹介

8つのチームに分かれて、名前や住んでいる地域、好きな食べ物や苦手な食べ物を紹介しました。



ワーク 南陽市の魅力や課題を考えよう!

8つのテーブルに分かれて、南陽市の魅力や課題について話し合いました。テーブルの進行役を市職員が務め、模造紙いっぱいに付箋(意見)が出される活気の溢れる時間となりました。



魅力と課題のまとめ

魅力として多く挙がっていたのは、やさしい人柄や人々の繋がりが強いこと、自然豊かで美しい景色が残っていること、電車や道路が発達しており交通の便が良いことや、ラーメンや温泉が有名で全国から観光客が訪れることなどが挙げられました。一方課題は、全体的にまちのPRが足りていないことや、人々が気軽に集まったり、行きたくなるような場所やお店が少ないことなどが挙げられました。全体的には魅力と課題が表裏一体となっている視点が多いことが確認されました。